

仙台西多賀病院 地域医療連携室だより

vol.53

新年のご挨拶

院長 武田 篤



新年明けましておめでとうございます。

本年も宜しくお願い致します。

さてご承知の通り、昨年9月26日に厚労省にて開催された「地域医療構想に関するワーキンググループ」会議にて、高度急性期もしくは急性期病床を持つ公立・公的医療機関等1455病院中424病院(29.1%)について、2025年の地域医療構想を踏まえ再編・統合を含む再検証を要するとされ施設名が公表されました。非常に残念なことに当院の急性期病棟(全480床中の90床)もその対象とされリストに挙がってしまいました。マスメディア等で一斉に大きく報じられたこともあり、多くの医療関係者のみならず、患者さんとそのご家族の皆様にも多大なご心配をお掛けすることになり誠に遺憾に思っております。

今回の分析結果は、2017年6月単月のみの診療実績に基づいたものであること、また救急医療、がん、心血管疾患や脳卒中など特定領域のみに重点が置かれているなど、その分析手法には大きな制限があると言わざるを得ません。それぞれの地域に於いて各医療機関の果たして来た多面的な役割やその歴史的経緯、個別性を一切無視し、一方的な基準により算出した数値に基づいた非常に乱暴な議論であると考えます。

しかしながらこの病院リストの公表は、諸外国に比べて過剰とされる本邦の急性期病棟を削減し、今後の超高齢社会を乗り切るための効率的な医療の提供体制を構築するための方策であることも事実です。今後とも当院は「障害」をキーワードに専門医療機関として地域の皆様のお役に立てることを目指しております。幸いこれまで一貫して当院の経営には何の問題もありませんが、これを機にさらに効率的な病院運営を目指して行くことを検討しなくてはならないと考えております。今後はより一層の強固な経営基盤を確立し、地域に無くてはならない医療機関として末永く皆様のお役に立てる様な体制を整えたいと考えております。引き続きご支援を頂ければ幸いです。



～仙台西多賀病院の理念～「良い医療を安全に、心をこめて」

文化祭開催！「心はひとつに 笑顔の力」

9月27日（金）、県立西多賀支援学校との合同文化祭が開催されました。

今年度の合言葉は「心はひとつに 笑顔の力」、患者さん方は病気や障害を乗り越え、この日のために時間をかけて準備してきました。

重症心身障害児・者病棟では、日頃行っている視覚・聴覚・嗅覚・触覚を刺激する癒しの空間「スノーズレン」の体験コーナーを提供しました。テーマは「宇宙」。満天の星や惑星の色塗りなど患者さんができるところを一緒に作り準備しました。当日は、オルゴールのBGMが流れる中、アロマの香りと共に宇宙空間を楽しんでいただきました。

筋ジストロフィー病棟の患者さん方は、サークル活動や個人の作品を展示・販売しました。多くの来場者に励ましの声をかけていただいたことは、患者さん方にとって大きな励みになっており、次への制作意欲に繋がったようです。会場には、たくさんの笑顔の花が咲いていました。

普段ベッド上での生活を余儀なくされている人工呼吸器装着の患者さん方も看護師や療養介助員の付き添いのもと多く来場しました。販売している患者さんやご家族、職員と笑顔で会話している姿はとても心温まるほほえましい光景でした。

アンケート結果から一部を紹介しますが、「それぞれの作品に、患者さんの思いがこもっているように感じます。（中略）今という時を自分らしく生きている人たちに満腔の敬意を表します。」などの温かい感想をお寄せいただきました。患者さん方からは、「多くの患者さんが販売に参加することができてよかった。」「楽しい文化祭だった。」という声が多く聞かれ、充実した文化祭になったようです。

最後に、町内会はじめ地域の皆さまにはPRチラシ配布の協力をいただきましたが、お蔭さまで多くの方に足を運んでいただくことができました。また、当日は、平日にもかかわらず多くのボランティアさんの協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

お蔭さまで素晴らしい文化祭になりました。

（療育指導室 保育士 八柳 比呂美）



市民公開講座「認知症映画上映会」を開催しました

10月19日、仙台国際センターにて認知症映画上映会を開催し、映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」を上映しました。当日は悪天候の中、予定よりも多い461名の方に足を運んでいただきました。

私もこの映画を観させていただきましたが、つい笑みがこぼれてしまうような夫婦の会話に心が温まりつつも、認知症により変化していく生活の様子に、自身の高齢になる祖父母や曾祖母の姿を重ねて涙が止まらなくなりました。帰り道、思わず離れて暮らす祖母達に連絡をすると「心配ありがとう。まだまだ大丈夫、元気です！」と言われ、また涙が溢れそうになりました。

観賞し終えたときには、誰もが多くのことを感じ考え、家族に会いたくなるはずです。是非機会があれば皆様もご覧ください。

（経営企画室 経営企画係 阿部 陽和）



ようこそ！新しい中央2階病棟へ！



中央2階病棟は整形外科、脳神経内科、内科の混合病棟です。関節リウマチや変形性関節症の手術を行うまでの患者さんや、保存療法やリハビリ目的の関節・脊椎疾患患者さん、パーキンソン病の薬物調整やリハビリ目的の患者さんも入院されています。患者さんの個別性を捉え安全な療養環境を提供し患者中心の看護を実践しています。

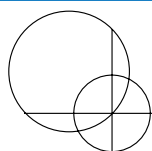
また早期から退院支援に取り組み、患者さん・ご家族が安心して退院できるよう、リハビリ科やMSWなど多職種と連携を密にしています。

6月より始まった新病棟改修工事も無事に終了し、10月30日に新病棟へ引越しました。改修工事中は仮設のトイレや浴室、また工事に伴う騒音などで患者さん・ご家族へは大変ご不便をおかけしていました。新病棟で、心機一転、スタッフのモチベーションMAXです!!これからも患者さんの個々のheart(心)に寄り添った、安全かつ信頼される看護を提供できるよう病棟一丸となって頑張っていきたいと思います。

(中央2階病棟 副看護師長 鏡 沙智)



令和元年度 QC 活動奨励表彰「グループ特別優秀賞」受賞！



『体液汚染』あわてず、安全に、対処したい

スッキリ！感染対策！リハザード



この度令和元年度QC活動奨励表彰において、国立病院機構内の75病院235題の中から特別優秀賞を頂きました。QCとはクオリティーコントロール：品質管理と解釈され、院内では全ての部門で業務改善に向けた活動を行っています。私たちリハビリテーション科（以下リハ科）の取り組みについてご紹介させていただきます。

リハ科は全ての病棟や外来部門から往来があり、感染拡大の起点になる可能性があります。そこで、今までは様々な場所に配置していた薬品や衛生キットを一カ所に揃えて整備し、処理方法が一目でわかる虎の巻を作成、それらを一つの袋に入れ一包化することで少ない人員で確実・安全に対処できるようにしました。

単純な工夫ではありますが、ノロウイルスなど感染力の強い汚染に対して最小限に食い止める有効な方法となっており、院内保育所でも採用され他部門へと広がりを見せています。

本年度もQC活動が各職場で行われております。今後も継続して患者様や院内の皆様に役立つことを実施して行ければと思います。

(リハビリテーション科 理学療法士 小笠原 陽子 (QCチームリーダー))



本部表彰の様子

「秋の演奏会」 を 開催しました



10月23日、重症心身障害児者病棟・筋ジストロフィー病棟にて、ヴァイオリン演奏会が開催されました。今回演奏して下さったのは、仙台市内のヴァイオリン教室に通われている生徒さん3名と、先生です。普段なかなか聴く機会がないヴァイオリンで「とんぼのめがね」や「村祭り」など、馴染みある秋の曲を演奏して頂きました。

患者さんやご家族も、懐かしむかのように口ずさんでいました。今年の10月は、秋を感じさせないくらい暑い日が続きましたが、今回の演奏会で秋の訪れを感じることが出来ました。

今後も、患者様やご家族の皆さんが楽しんで頂けるような行事を企画していきたいと思います。

(療育指導室 主任保育士 齋藤 良江)



筋ジストロフィー医療研究会に参加して

今回、10月11日・12日の2日間青森県青森市で第6回筋ジストロフィー医療研究会が開かれました。過去最大級の台風19号が近づくというニュースが流れているにも関わらず、200名以上の参加者が集まり興味深い研究発表や活発な意見交換が行われました。「患者さんに変わらないベストの医療を提供できるように、我々自身が変わって行こう」という主催者の思いから、「変わらないために変わろう」というテーマで開催されました。

看護研究発表では「陰性感情がおこる時間帯の調査」や「ナラティブアプローチをもちいた関わりでの成功体験」など興味深いテーマも沢山ありました。筋ジス看護を語る会では、パートナーシップ・ナーシング・システムを導入し工夫を重ねることでスタッフ育成に役立っているなど、病棟運営上の工夫や新人育成のための課題を共有することができました。同じ悩みを持ち同じような課題に取り組んでいる他施設の方々の生の声を聞き、元気を沢山頂くことができました。

(南2階2病棟 看護師長 菊地 操子)



高橋俊明内科系診療部長



小関敦療育指導室長

山田福祉フォーラムに参加しました！

10月5日、仙台市山田市民センターにて福祉フォーラムが開催されました。当院も毎年参加しており、今年は9名が参加しました。

当日は天気恵まれ、少し汗ばむ陽気でしたが、当院のブースには114名の方にお越し頂きました。今年は血圧・体脂肪測定、骨密度測定、栄養相談、認知症予防として指先を動かす折り紙体験の4つを実施し、開始時から列を作る程の盛況でした。特に、骨密度測定と栄養相談は時間帯によっては待ち時間が長くなることもありました。

皆さん健康に関心が高く、昨年の測定値と比較する方、測定結果から今後注意すべきことを質問される方が多くみられました。私が担当した骨密度測定では、結果を心配し、恐る恐る計測する方もいました。一番良い状態を示す「A」の測定結果が多く、「昨年より結果が良くなった」と喜ぶ姿もみられました。日頃から食事・運動を心がけているとの声が聞かれ、今後も継続して頂きたいと思いました。測定結果が思わしくなかった方も「運動はあまりしないから」など、自分の生活を振り返る機会となり今後の改善点を質問されていました。

今回初めて参加させて頂き、地域の皆さんの「いつまでも元気でいたい」という思いが強く感じられました。

(看護部 教育担当師長 渡辺 玲)



～栄養相談を行って～

今回、栄養管理室では50名近くの方に栄養相談を実施させて頂きました。

その内、約半数の方が、高血圧の薬を内服されているため、減塩食を進められているが、なかなか実行できていないとの相談でした。

血圧が高い＝減塩とイメージする人が多いと思いますが、宮城県では、県民の意識を高めることを目的に「野菜、あと100g」「減塩、あと3g」を目指す、「ベジプラス100&塩eco」推進事業を行っており、血圧が高くなくても、日々の食事からの塩分量を知って、減塩をする必要があります。

栄養指導は、「めんどくさい」「続かない」「出来ない」など、負のイメージをされる方が多いと思いますが、当院では、皆さんの日々の生活にあった、手軽に取り入れやすい、食事の提案を進めております。

当院に通院している方で、栄養指導を希望する方は、お近くのスタッフまでお声がけください。

(栄養管理室 栄養管理室長 西館 真理)



外来担当表

区 分			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
整形外科	せばね	新患	古泉 豊	川原 央		山屋 誠司	国分 正一	
		再来	国分 正一	国分 正一	川原 央	古泉 豊	国分 正一	
			山屋 誠司	両角 直樹		小坏 知明 (第1・3・5週)		
				八幡健一郎		田村 則男 (第1・3・5週)		
	関節	新患			田村 則男			
		再来			大出 武彦		田村 則男	
	せばね・関節		須田 英明	須田 英明	須田 英明	須田 英明		
	側弯症						両角 直樹※1	
脳神経内科	新患	馬場 徹		高橋 俊明	武田 篤	吉岡 勝	金原 禎子	
				田中 洋康		大泉 英樹		
	再来	武田 篤		吉岡 勝	武田 篤	大泉 英樹	田中 洋康	
		江面 道典			高橋 俊明	金原 禎子		
内 科			三浦 明	三浦 明	長崎 明男 (第2・4週)		三浦 明	
				苅部 明彦 (循環器専門)※2				
リウマチ内科				星 陽介				
小 児 科			小林 康子 (成長発達)	小林 康子	午前 小林 康子 (乳児健診・予防注射)	午前 小林 康子		
					午後 小林 康子 (第1・3・5週)	午後 大村 清 (小児筋神経) (第1・3・5週)		
脳神経外科			永松 謙一 (第1週)※3					
泌尿器科					東北大学医師 (第2・4週)	武弓 俊一		
遺伝カウンセリング							午後 苅部明彦または 高橋俊明※2	
もの忘れ外来 ※4			大泉 英樹	武田 篤	馬場 徹	佐久間博明	金原 禎子	
禁煙外来					武田 篤	苅部 明彦		
歯 科							佐藤 敦※5	

※5 歯科外来は主に入院患者の診療を行っています。

